

はじめに

近年、個人を支えてきた血縁（家族とのつながり）、地縁（地域とのつながり）、社縁（会社とのつながり）の3つの縁との接点がない孤立・孤独状態に陥りやすい社会情勢となってきました。

さらに、本格的な少子高齢化・人口減少社会の局面に突入し、支える側が減少し、支えられる側が増加することが見込まれます。

このような背景の中、このたび、令和5年度（2023年度）から令和9年度（2027年度）までの5年間を計画期間とする「竜王町地域福祉計画・地域福祉活動計画」を策定いたしました。



今回、地域福祉の領域において、行政が担うべき公助の責務を中心に記載する「地域福祉計画」、社会福祉協議会が、住民とともに共助の推進を図る「地域福祉活動計画」の両計画を一体的に策定しております。

一体的な策定をすすめていく過程の中で、行政、社会福祉協議会の役割の明確化、または連携の強化について、両者が再確認したところであります。

また、本計画では、少子高齢化、人口減少社会に対応すべく、2つの視点を入れております。1点目は、新たな協力者とのつながりづくりを推進し、地域全体を支えていく視点、2点目は、今ある地域の強みを最大限に活かしていく視点であります。

2つの視点を合わせた例として、昼間人口の多さを活かした企業の見守りの協力や、町外に住んでいる親族、いわゆる近居者の多さを活かし、企業や近居者と地域住民との連携をコーディネートすることを進めてまいります。

地域福祉は、地域に住んでいるすべての人が、地域社会と接点を持ち、地域や一人ひとりの強みを活かしながら、安心して暮らせることを推し進めるものであります。

本計画には、基本理念として“みんなの「あい」でつくる共生のまち 竜王”を掲げております。

基本理念を実現するために、住民同士のお互い様の支えあいをはじめ、企業などの竜王町に接点のある方々の協力、行政の公助としての責務の遂行など、全ての社会資源を組み合わせた ALL 竜王の体制を整備すべく、全力で臨んでいく所存であります。

最後になりましたが、本計画の策定にあたり、熱心にご審議を賜りご尽力いただいた竜王町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会の皆様をはじめ、アンケート調査にご協力いただいた多くの町民ならびに自治会の皆様に、心から厚く御礼申し上げます。

令和5年（2023年）3月

竜王町長 西 田 秀 治

近年、人口構造などの変化で社会の支え手の減少が進み、地域福祉を推進する基盤が縮小している現状も見られ、地域社会のあり方や福祉活動のあり方が大きな転換期に入り、竜王町においても孤立、孤独に陥りやすい状況になっています。

特に、令和2年（2020年）からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、経済、社会生活へ大きな影響を及ぼし、人と人との直接的なつながりを阻害し、生活困窮や孤立など福祉課題が増加してきました。



本会では、これまでから「住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまちづくり」をめざして、地域福祉活動計画を策定し、住民主体、官民協働の福祉のまちづくりに取り組んできました。

今回、社会状況や環境の変化の中で、第4期となる竜王町地域福祉活動計画を策定しました。今回の計画は、社会福祉協議会と行政がそれぞれの役割を確認し合い、連携をより強化するため、行政計画である「竜王町地域福祉計画」と一体的に策定しました。

竜王町では、自治会ごとに福祉委員会が組織され、身近な地域の福祉課題に沿った住民主体の地域福祉活動が行われています。計画の基本理念である『みんなの「あい」でつくる共生のまち 竜王』を実現するため、その強みを活かして取り組みを進めていきたいと考えています。

最後になりましたが、本計画の策定にあたり、ご協力いただきました地域や自治会の皆さまに感謝申し上げますとともにご指導いただきました竜王町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定委員会委員長、関西学院大学の藤井博志先生をはじめ、ご意見、ご議論いただきました策定委員会の皆様に心から厚くお礼申し上げます。

令和5年（2023年）3月

社会福祉法人竜王町社会福祉協議会
会 長 勝見 久男